

令和3年度 第1回学校運営協議会（記録）

1 日時 令和3年6月24日（水）9:00～12:00

2 参加者 学校運営委員会

- ・門池地区連合自治会長 様 ・沼津市手をつなぐ育成会顧問 様
- ・さんしんハートフル株式会社人材開発部主査 様 ・愛鷹分校 PTA 会長 様
- ・校長，教頭，高等部主事，教務主任

3 校長挨拶

- ・愛鷹分校は、開校当初から地域と共にある学校として、地域作業や地域交流を教育活動の中心とし学校運営を行ってきた。今回、学校運営協議会を実施することにより、学校と地域が一体となって生徒の成長と共生社会の実現を目指していきたいと考えている。また、小中学校と違い、特別支援学校は校区が広いので、地域の捉え方を居住地とするのか、学校周辺とするのか、どこを地域として捉え、運営協議会を進めていく事がよいのかも課題となっている。今年1年かけて本校に有益な方向を検討し、会を進めていきたいと考えている。

4 学校運営協議会について説明

- ・文部科学省冊子「これからの学校と地域コミュニティ・スクールと地域学校協働活動」を利用して、説明した。学校運営協議会とは、委員が、一定の権限を持って、学校の運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関のことである。主な3つの役割は、「校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること」「学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができる」「教職員の任用について、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる」である。御意見をいただき、取り組みを進め、中間報告をし、学校の課題解決につなげていきたい。

（委員より）

- ・コミュニティ・スクールの在り方や地域の捉え方について、ぜひ、地域が関連するように、取り組んでほしい。コミュニティ・スクールを如何に発展させていくのか、今年を1年間の移行期間として、いろいろと探してほしい。
- ・パラリンピックの存在が大きく、共生社会の実現に向けて、障害の壁が取り除かれてきている。
- ・共生社会について、障害者理解が進んでいるが、知的障害者に対する理解がまだまだ進んでいない。知的障害の理解が広がるように、基礎を作れるようにしているが、まだまだ足りない。

（校長より）

- ・これから少しずつ理解が進むよう、学校も取り組んでいきたい。

（委員より）

- ・知的障害者は、それぞれ違う。地域での集まりで、知的障害の方への差別を感じてしまう。
- ・愛鷹分校の生徒が、卒業後の生活について知りたいことがあれば、声をかけてほしい。先生方の授業に向けてサポートできることは何かあるか考えていきたい。
- ・自治会活動もどうあるべきか、住民が欲していることは何か、考えて取り組んでいる。
- ・誰でも行きやすい自治会を望む。自治体自体も変わってほしい。

（校長より）

- ・特別支援学校に通う児童生徒は、希望があった場合に居住地の学校と交流を行っている。小学部の低学年から、居住地校交流を行ったり、地域の防災訓練に参加したりして、地域の方々に知ってもらふ機会をふやしていきたいと考えている。

5 学校経営目標等説明

(教頭より)

- ・学校経営計画について、学校経営計画書を見ながら本年度の重点目標を説明した。
「防災・防犯・安全」では、けがをしたときどうするのか、自分で対応できるように自分を守る授業の実施。防災学習は、1年生が防災倉庫見学等地域での学習、2年生は、沼津市や静岡防災センターへの校外学習が予定されている。「授業改善」では、「職業」を取り上げ、研修していく。カリキュラムマネジメントを意識して、取り組んでいく。また、ICTを活用した授業づくりも行っていきたい。「共生・共育」について、コロナ禍で、沼津城北高校との行事ができていないので、教員同士の情報交換や出来そうな活動を探して交流を進めていきたい。

(校長より)

- ・今年度、研修の窓口が「作業学習」から「職業」に変更した。窓口が変わっても、今まで研修で積み重ねてきたことを崩さないようにやっていきたい。

(委員より)

- ・学校経営計画について、委員の意見をどれだけ盛り込むことができるのか。出来上がってしまうと意見が言えない。例えば3月末に意見を言える場を作るようにしていただくと良い。

(校長より)

- ・今年度10月に、どこまでやったのかを示し、後期に向けて意見を聞き、3回目の学校運営協議会では、今年度の反省と令和4年度の方向性を示し御意見をいただくようにしたい。
- ・共生・共育について、生徒や保護者からは沼津城北高校との交流を楽しみにしていることが伺える。コロナの影響で交流が思うようにできていないが、保護者が求めてきたものに丁寧に対応し、高校生活を充実したものになるようにしたい。

(教頭より)

- ・作業学習で育てた花を沼津城北高校の花壇に植えたり、部活での交流を考えたりしている。

(委員より)

- ・例えば、サッカーの試合でチームを一緒にすることで、お互いの事を考えることができる。また、美術作品を見合うことを通して認め合うことができる。そういった活動を通してお互いに認め合うことでできるのではないかな。

6 学校生活の様子について

(部主事より)

- ・卒業生の進路、学習の基本方針、職場実習の意義、行事の見通しなどを説明した。

(委員より)

- ・卒業生を、卒業後も3年間継続してくれていることは、とてもうれしい。

(校長より)

- ・この学校が自分に合っていなかったということで、退学する生徒もいる。退学する生徒についても、ケース会議を行い、退学した後も市町とつながっていられるようにと進めている。

(委員より)

- ・花植えなどの活動は、沼津城北高校の生徒も一緒にできること。一緒に触れ合い、活動できる場を作ってあげられることが大切。
- ・「先輩と学ぼう」などの学習を行うことができるなら社員を派遣して一緒にお掃除を行うこともできる。一緒に行うことで、相乗効果を生む。いつでもうちは受け入れる。お互いのことを知り合い、良さを認め合えるようになってほしい。

7 授業参観

- ・1年生の美術「回転版画」を参観。